

ニュースリリース

2026.01.26

サステナビリティ

 ニュースリリースTOPへ戻る

神奈川県南足柄市と

「ペットボトルの水平リサイクルの実施に関する協定書」締結

「ボトルtoボトル」事業で資源循環型社会の実現に貢献

アサヒ飲料株式会社（本社 東京、社長 米女太一）と神奈川県南足柄市（市長 加藤修平）は1月26日に「ペットボトルの水平リサイクルの実施に関する協定書」を締結しました。本協定に基づき両者は協働で、南足柄市の家庭から回収された使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生して飲料容器として再利用する「ボトルtoボトル」事業を開始します。

今回の取り組みは、アサヒ飲料を傘下を持つアサヒグループジャパンが南足柄市と2023年1月に、持続可能な地域づくりを共創するための連携協定を締結したことが契機となっています。アサヒグループは南足柄市の地域課題の解決や地域活性化を目指し、環境教育や廃棄物の分別推進など多様な活動を展開してきました。今後、アサヒ飲料は「ボトルtoボトル」事業を推進することで、南足柄市の使用済みペットボトルのリサイクル率の向上を図り、資源循環型社会の実現に貢献します。

南足柄市
Minamishiga City

「ボトルtoボトル」は、石油由来のペットボトル素材を調達し製造する場合と比較して、CO₂排出量が少ないペットボトルのリサイクル法です。今回の取り組みでは、リサイクル時に発生する残渣を少なくするため、「メカニカルリサイクル（物理的再生法）」と「ケミカルリサイクル（化学的再生法）」の2つの手法を組み合わせています。メカニカルリサイクルの工程で発生する『残余物^{*}』をケミカルリサイクルしていくことで、メカニカルリサイクルのみの場合を上回るリサイクル率を目指します。

※ ペット素材を多く含むパウダー状のもの

<参考>

■メカニカルリサイクルとケミカルリサイクルの組み合わせ

メカニカルリサイクルは、回収したペットボトルを高温で溶かして異物を取り除いてペット樹脂を再生する手法です。ケミカルリサイクルは、ペットボトルを分子レベルにまで化学分解して不純物を取り除き、新たな再生ペット樹脂とするものです。ケミカルリサイクルの方が高品質の再生ペット樹脂が出来上がりますが、コスト面では大がかりな分解設備などが不要なメカニカルリサイクルの方が優れているとされます。

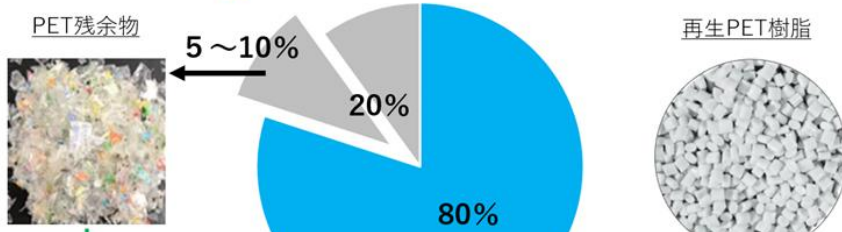
アサヒ飲料は、メカニカルリサイクルとケミカルリサイクルの組み合わせにより、リサイクル率の向上を目指しています。

■リサイクル工程における残渣と残余物

メカニカルリサイクルではリサイクルの工程で約20%の残渣が発生しますが、そのうち5～10%の残余物はペットボトル以外のものへのリサイクルが主となっています。残余物の一部にはペットボトル素材が含まれているため、残余物もペットボトル原料に再生することで、効率的かつ持続的なリサイクルが実現できます。

メカニカルリサイクル工程の残余物排出割合

■ 再生PET樹脂 ■ 残渣



残余物をケミカルリサイクルで樹脂へ再生

※上記グラフ割合は当社調べ

ケミカルリサイクルの原料となるPET残余物は工程の中で10%程度排出されるため、従来と比較して**ボトルtoボトル率を5～10%向上**させることが可能

[商品情報](#) > [キャンペーン](#) > [知る・学ぶ](#) > [安全・安心の取り組み](#) > [社会との約束](#) > [企業情報](#) > [ソーシャルメディア一覧](#) >



[GLOBAL](#) [お客様相談室](#) > [ご利用規約](#) [プライバシーポリシー](#) [サイトマップ](#) >

©ASAHI SOFT DRINKS CO., LTD. ALL rights reserved. のんだあとはリサイクル

100年のワクワクと笑顔を。

アサヒ飲料

